

令和2年度 福井県立若狭高等学校(定時制) 学校関係者評価書

(問)

- ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。
- ・その他

(意見を聞いた方)

若狭高校定時制 振興会副会長、育友会会長、育友会副会長（2名）

(意見欄)

○教育課程・学習支援・研修

◆基礎学力充実への取り組みについて

- ・生徒が出された課題にしっかり取り組んで、自主的な学習習慣が定着できている。
- ・一人ひとりに寄り添うためには多様なスタイルが必要であるが、工夫されてきた結果が学習習慣の確立、基礎学力の向上につながっている。
- ・コロナ禍でも学習ができる方法を考えてこれからも準備をお願いしたい。
- ・自分の学習を反省し、苦手分野の克服に向けて取り組むことができている。

◆学習に対する興味・関心・意欲を高めることについて

- ・ベテランの先生も多く、生徒の能力に応じた学習環境が整っている。
- ・これまで興味を示さなかった内容にも定時制に入学して前向きに取り組もうとしている。
- ・コロナ禍でも、グループ学習やアクティブラーニング型授業を継続して進めてほしい。
- ・生徒の8割が学習に対して好意的に感じているようなので、成果が上がっている。
- ・学習に対する意欲および姿勢は自然と努力し頑張るようになってきているので適切である。
- ・引き続き生徒の積極性を伸ばす取り組みについて研究されることを期待する。

○生徒支援

◆生徒会活動の充実に関する取り組みについて

- ・コロナ禍にあってもできる範囲で取り組んだ結果、活動が充実したと感じる生徒が95%となっており評価できる。
- ・何もないところから、みんなで一つのものを協力して作り上げる体験をして、生徒の自主性が育っていると感じる。
- ・来年度もコロナ禍における活動の制限が予想されるが、活動に取り組みやすい環境づくりをして、学校生活の充実に努めてほしい。
- ・少人数ではあるが、その生徒たちで満足できる活動をこれからも考えていってほしい。

◆自他を尊重する意識を高め、自分自身の生き方をみつめさせる取り組みについて

- ・生徒も保護者も満足度が高く適切である。
- ・生徒の満足度が高いことから、取り組みが適切であったと思う。
- ・生徒たちの心に寄り添った講演会をしていただきよかった。
- ・ボランティア活動の意義をよく理解し、社会に貢献する精神をつけてほしい。

○進路支援

◆職業意識の啓発と、自らの進路について考えさせる取り組みについて

- ・3年ないし4年かけたキャリアガイダンスが必要である。そのため自ら考え判断する生徒を育てるためのキャリアノートのようなスタイルを用意するとよいと考える。
- ・生徒の進路希望が実現できるように、職業選択や就業についての指導を充実して欲しい。
- ・学年が上がるにつれて、将来の進路というものが具体的に考えられるようになっているので、適切である。
- ・11月のガイダンスだけでなく、選択肢等の情報を提供して進路指導をお願いしたい。

◆資格への挑戦について

- ・全校生徒で取り組む「日本語検定」は成果が出ている。
- ・生徒に応じてさらなる挑戦を後押ししてほしい。
- ・在学中に取れる資格は、早めにとりかかって進路に役に立てていければよい。
- ・資格取得に対する意識の高さが伺える。適度なレベルの受験で合格率を上げることにより、自信をつけてさらに学習意欲が向上することを期待する。

○全体（総括）

- ・全体的に一人ひとりの生徒に適切な学習環境が提供できていて、生徒の意欲の高まりもよく感じられる。
- ・コロナ禍で生徒も先生も初めての経験が多く、制約されることも多い環境で学校生活を送ったが、その中でもいろいろな工夫をして学校生活が充実していたと思われる。
- ・学校のさまざまな取り組みのおかげで、学習意欲を損なうことなく登校を継続できた。
- ・進路相談・面接対策もしっかりとさせていただき無事就職することができました。
- ・個々の個性を認め合える集団を作り、全員が継続して登校し卒業できるようこれからも取り組んでほしい。

（学校関係者評価を踏まえた今後について）

○教育課程・学習支援

学校に登校し、授業に出て学習を進め、課題をこなすことによって学習内容を定着させるというプロセスについては、生徒の意識も高まって、新入生においてもうまく機能するようになってきているので、コロナ禍の社会状況で登校ができなくなっても学習が進むように、教員側も生徒側もタブレット等の活用に慣れていく訓練が必要である。

アクティブラーニング型授業や探究的学習については、通常の対面授業においても、より多くの場面で導入していく工夫が必要であり、さらに、コロナ禍の状況では進めにくい面もあるが、学習形態のみにとらわれることなく、生徒自身の内面に変化が現れるような指導を多くの教科で考えていかなければならない。

○生徒支援

生徒会活動については、学校行事の企画運営を行うことで自主性や責任感が育ち、全校生徒を動かすことで自信も生まれている。少人数であることの特長を活かしながら、状況に応じて計画的に取り組ませたい。

自身の生き方をみつめること、自他を尊重する態度についても向上がみられている。多様な生徒が同じ時間と空間を共有する中で、引き続き教員と生徒間の信頼関係を深めていくことに努め、安心して学習や学校生活に臨めるようにする。

コロナ禍において、ボランティア活動への取り組みに大きな制約が生まれるが、自他を尊重する態度を育てていく上での効果を考慮し、新規の企画を含めたボランティア活動をすすめ、各生徒の活動内容を全生徒で共有できるような場の設定なども検討していく。

○進路支援

進路に関する行事は一定の成果が出ている。今後も担任が面談や進路希望調査等を通して生徒の職業意識を把握し、進路に関する行事は生徒の実態に合わせて内容を適宜検討しながら実施する。特に、卒業年次の生徒には早期から進路情報を提供し、生徒の進路決定を支援する。

一昨年度から6月と11月の2回、進路ガイダンスを実施しているが、感染症の影響で11月に1回しか行うことができなかったので来年度は例年通り2回行うことができるとよい。

生徒の資格取得については、今後も各教科担任が検定試験の情報を生徒に提供するとともに、生徒の関心や能力に応じて合格に向けて支援を行う。「総合的な探究の時間」で全生徒が取り組んでいる日本語検定については、3級の合格率向上が課題であり、弱点補強をはじめとする具体的な対策の検討を進めたい。